



家屋環境・日常生活のアンケートについて

当リハ科では、ご自宅の環境や、生活状況を把握し、効果的なリハビリの実施や住宅環境についてのアドバイスを行うために患者さんのご自宅に伺って環境確認を行う場合があります。しかし、COVID-19の影響などにより直接ご自宅にお伺いすることが困難な事もあります。そこで、当リハ科では、日常生活・家屋環境の2種類のアンケートを用いて情報を把握しています。今回はその2種類のアンケートについて例を用いてご紹介します！

日常生活についてのアンケート

例)

杖を使っていたのであれば、杖歩行の練習を行います。

御家族のお願い
患者様ご自宅内で実際おこなっていた動作を把握し、より効果的なリハビリを実施したいと考えております、そのため、以下のアンケートにご回答いただけますよう、よろしくお願いいたします。

《移動について》

● 家の中ではどのように移動していましたか？

- ① 1人で歩く
- ② 杖を使う
- ③ 介助をして歩く
- ④ ほとんど寝ていて移動しない
- ⑤ その他 ()

● 外に出かけることは多いですか？

- ① 多い (どこへ?)
→ 移動は歩き・車椅子どちらですか? ()
- ② ほとんどない

《日常生活について》

● ご本人様の性格について当てはまる物を選んで下さい。

明るい・話す事が好き・社会的・おこりっぽい・あまり話さない
神経質・責任感が強い・几帳面・努力家・こだわりがある・感情的
その他 ()

● 趣味や好きな事はありますか？

()

● 家事はされていませんか？

- ① している (内:)
- ② していない

家事をされていたのであれば、洗濯や、料理動作なども練習します。

家屋環境についてのアンケート

手すりの設置や、車椅子の移動が可能なのかについて検討します。

《廊下について》

● 廊下 手すりはありますか? 有る・ない

● 廊下の幅は何cmありますか? _____ cm

《寝室について》

● 寝室は何階にありますか? 1階・2階

● 寝具は何を使用しましたか? 布団・ベッド

《トイレについて》

● トイレは?
① 和式 ② 洋式 (便座までの高さ _____ cm) ③ ポータブル

● トイレのドアは? 引き戸・開き戸

● トイレのドアの幅は? _____

● トイレの入りの段差は何cmありますか? _____

● トイレの広さは何cmありますか? 縦 _____ cm・横 _____

● トイレの簡単な図面をお書きください。

トイレを使うには、何cm以上から立ち上がる必要があるのか把握することができます。

必要な方には、こちらからご依頼することがあります。
アンケート記入のご協力をよろしくお願いいたします！

医療法人 関越中央病院

入院だけでなく外来リハにも対応しております。
主治医にご相談ください。

■施設基準

心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ
脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱ
廃用症候群リハビリテーション料Ⅱ
運動器リハビリテーション料Ⅰ
呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
がん患者リハビリテーション料
摂食機能療法

心臓リハ部門



主任 理学療法士
津久井亮

病院リハ部門



主任 理学療法士
丸山あすみ

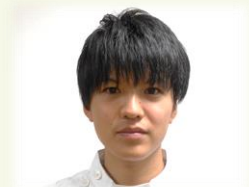
通所リハビリテーション関越中央

1～2時間の短時間通所リハ、6～7時間の長時間通所リハを行っております。

相談員業務をリハ職が行うことにより、利用者様に合わせた最適なプランを提案させていただきます。



主任 理学療法士
狩野和子



主任 理学療法士
田口裕一

訪問リハビリテーション関越中央

病院で急性期リハを学んだ職員が対応することで、心臓・呼吸に問題のある利用者様も安心してご利用頂けます。

空き状況	月	火	水	木	金
短時間型通所リハ 1クール 9:00～10:15	○	○	○	○	○
短時間型通所リハ 2クール 10:30～11:45	○	△	△	○	△
長時間型通所リハ 9:00～15:15	○	○	△	○	△
訪問リハビリ 13:00～17:00	△	△	○	○	△

○：受け入れ可能 △：要相談 × 受入困難

〒370-3513 群馬県高崎市北原町71

TEL：027-373-5115 (代) FAX：027-372-2829

アドレス：reha@kan-etsu-hospital.com

ひとことコラム 股関節の硬さは転倒に関係する！？

高齢者がバランスをとる際には、お尻を大きく引くなどの動作が用いられます。これは「ヒップストラテジー」と呼ばれる運動戦略です。加齢により胸椎や腰椎、骨盤の可動性が低下し、微細なバランスのコントロールが困難になります。そこで比較的可動性の高い股関節を大きく動かすことで、バランスを取ろうとする戦略です。

しかし、股関節の可動性が低下してしまうと大きくバランスが崩れた際に上記の戦略を用いることが難しくなってしまいます。

みなさんも図のようなストレッチを行い、柔軟性を維持していきましょう！

